

第1号議案 令和2年度事業報告に関する件

1、協会のあゆみの概要

当会は1994年(平成6年)2月に高知市で任意の市民団体『高知県生態系保護協会』として設立。平成9年に高知県より社団法人に認可。2005年(平成17年)7月に名称を『社団法人生態系トラスト協会』に変更。公益法人の制度改革に伴い、2013年(平成25年)4月に『公益社団法人』に変更して認可された。2014年(平成26年)7月に、四万十ヤイロチョウの森ネイチャーセンターがオープン。2016年(平成28年)4月1日より主たる事務所を高知市から四万十町に移転し、事務所機能とネイチャーセンター機能を統一して運営にあたってきた。

2020年(令和2年)3月までに、四万十町を中心に、高知県内各地に303,6haのヤイロチョウ保護区や生態系保護区の森をナショナル・トラスト手法で取得した。また、2016年8月には、下道地区に取得したトラストの森に隣接して、株式会社王子ホールディングスが所有する260haの社有林と『ヤイロチョウ保護協定』を結んだ。さらに、2017年度からは、株式会社山崎技研のご支援を得て、『自然林再生プロジェクト』の一環として増えすぎた野生シカから自然林を守る調査研究や広葉樹の植樹活動。さらに、2020年2月からヤイロチョウが生息する森を中心に、エコツアー地域としての地域活性化を高めるため、原木シイタケの森作りなどの取り組みにも着手した。

この間、環境省(四国のツキノワグマ個体群調査)、農水省(四国で越冬するツル類の保護調査)、高知県(国道に隣接するクマタカ営巣環境調査、鳥獣保護区調査、愛鳥モデル校の指導・愛鳥ポスターの審査等)、地球環境基金(ヤイロチョウ保護調査)、イオン環境財団(国際的なヤイロチョウ保護連携)、日本財団(ヤイロチョウを通じた環境教育)、日本グラウンドワーク協会(環境に配慮した人材育成事業)、ごども夢基金(環境教育教材作りや自然体験バスツアー)等から受託や助成金を得て、各種調査・環境教育事業等を進めてきた。

こうした25年間の活動の中で、ヤイロチョウ保護に関する記念すべき成果として、『高知四万十の森 幻の鳥ヤイロチョウを追う』という1時間番組が、NHKBSプレミアム『ワイルドライフ』で2020年9月16日に放映された。しかし、2019年2月に日本最大級の大規模風力発電計画がマスコミに発表され、2019年度からその対応に追われるようになった。

2020年度は、中国武漢で始まった新型コロナウイルス感染が日本にも飛び火し、4月～5月にネイチャーセンターを完全休館。夏休み親子キャンプも中断するなど、人が集まる活動のほとんどが休止した。

そんな中、写真家の松村伸夫さんの協力を得て、8月2日から2021年1月16日まで、『世界のヤイロチョウ写真特別展』やトークショーなどを開催した。また、7年ぶりにネイチャーセンターをリニューアルオープンする準備のため1月17日から2月28日まで休館した。

2、ヤイロチョウ保護活動

1) 大規模風力発電計画への対応について、理事会・顧問・関係者と協議を行った。

2) 「ヤイロチョウのさえずる町づくり条例」の制定について

2020年3月19日に開催された町議会で条例制定の請願書が採択されたにもかかわらず、町執行部に取組みの姿勢が見られないことから、9月に町長と担当課長同席の面談を申し込んだところ、町長より「オ



リックスの回答があるまでは取り組まない」意向である旨を告げられた。

3) ヤイロチョウに関連した特記事項

2020年9月16日放送のNHKBSプレミアム『ワイルドライフ』で放映された『高知四万十の森幻の鳥 ヤイロチョウを追う』という1時間番組の影響もあって、6月には関東から60名も予約が入っていたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けてほとんどがキャンセルとなった。

3、その他の四万十ヤイロチョウの森&ネイチャーセンターの事業

1) 自然林再生事業の推進

令和2年度は、前年度に予定していた植樹ができなかったため、ヤマザクラ、ヤマグリ、モミジ苗木を親子植樹イベントとして植える予定だったが、悪天候などが重なったため、岡村政則さんからいただいたクヌギやミツマタの苗木なども含めて、事務局とボランティアにより植栽した。

2) 生きものふれあい鶴田公園の管理

高知市にある鶴田公園の草刈りや花壇整備については、四万十町より草刈り機を軽四トラックで運んで整備作業を行ったが、地域からの協力者が見つからないなど、今後の活用・管理体制に課題が残った。

3) 広報・募金活動

A, 会報誌『森のしずく』は、A4版8ページ～12ページで、134号(夏号)、135号(秋号)、136号(冬号)、137号(春号)を、各1500部～2000部発行し、正会員、サポート会員、友の会会員、会友(一口オーナー、募金者)、ネイチャーセンター来訪者などに送った。

B, 無手無冠が製造している地酒、『八色鳥』無手無冠募金ラベル作成に協力した。

C, 飼育していたヤギが5月に子ヤギを出産したので、愛称を募集したところ「クロベア」に決まったが、8月に子ヤギは事故死した。

D, 10月に映像ライブラリーVOL.1『四万十ヤイロチョウ』を完成させた。

E, 2018年10月～2000年8月に朝日新聞高知総局に中村会長が連載した『たまさんの生態系の不思議』を、生態系トラスト協会の資料集として1月に発行した。

F, <対談>「コロナ時代を生きる」を3回、山崎技研浦ノ内養魚場で中村滝男会長、山崎道生顧問、畠山正則理事と3名で実施した。YouTubeでアップする準備を行ったが、音声レベルの設定など撮影技術の問題があり実現できなかった。

4) 講師の派遣

高知県立高知北高校からの要請を受けて、11月に、ヤイロチョウ保護の取り組みを紹介する講師を派遣した。例年、大阪自然史博物館で開催されていた「大阪自然史フェスティバル」はコロナウイルスのため中止となった。

また、例年、東京ビックサイトで開催されていた「エコプロダクツ2020」は、コロナウイルスのため中止となり、講師を派遣しなかった。

5) 四万十ヤイロチウの森ネイチャーセンターの運営体制

常勤職員1名と、嘱託研究員、アルバイト等により、ホームページの更新、展示用の野鳥や動物の剥製の解説貼りパネ作成、来館者の案内、業務日報の作成などの業務を行った。また、65歳以上の高齢者の雇用に対する助成制度を活用して、3月10日より鹿児島県の新村則夫さんを1年間スタッフとして雇用した。

4、助成事業

- 1) 昨年に続いて、文部省所管の「こども夢基金」の助成金を得て、「親子で自然体験バスツアー」を夏休みに開催する予定だったが、コロナウィルス対策のため中止した。

5、その他の委託・補助事業

- 1) 前年度に続いて、高知県鳥獣対策課「野鳥とのふれあい事業」を受託し、令和2年度愛鳥コンクールポスター展示会、令和3「年度審査会、1月には高知市みどりの広場で親子愛鳥教室を開催した。

6、他団体の活動協力・支援事業

- 1) 共同事務局団体の中西悟堂協会の会報誌『野鳥居』10号を7月に発行した他、11月には鎌倉霊園で中西悟堂生誕125周年イベントを計画したが、コロナウィルスのため一部の参加にとどまった。
- 2) 四国ツル・コウノトリ保護ネットワークの事務局として、西日本で越冬・繁殖するツル・コウノトリ類の生息地保全に関する調査や情報提供をメーリングリストで紹介した。
- 3) 3月7日に四万十ふるさと自然の会が主催した講演会「四万十川流域会議」に、朝霧森林倶楽部代表の島岡幹夫さん、明神水産会長の明神照男さんと共に中村滝男が講師として出席した。